

普及指導員調査研究報告書

課題名：山口県オリジナルリンドウ「西京の初夏」の栽培技術の導入・普及

農林総合技術センター技術指導室 担当者氏名：篠原裕尚

<活動事例の要旨>

山口農林総合技術センターで育成された、やまぐちオリジナルリンドウ「西京の初夏」の安定生産に向けた技術課題解決に向けた取り組みを行い、西南暖地である本県においても普及が図られ、栽培者・生産面積が拡大した。

1 普及活動の課題・目標

農林総合技術センターで平成23年度に品種登録出願された「西京の初夏」は、極早生のリンドウで、従来品種と比較して、西南暖地である本県においても株の残存率が高く、水田転作作物として期待されている。リンドウは、定植1年目は採花せずに株作りを行うが、1年目の生育が2年目以降の収量・品質に大きく影響する。

このため、農業革新支援センター及び農林事務所が中心となり、本品種の開発主体や行政担当及び農業関係団体等とも連携・協力し、山口県リンドウ研究会を主な普及対象者として、実証展示ほの設置、現地検討会、花き展示品評会の開催等の取組を通じて、「西京の初夏」の普及推進を図ることとしている。普及推進に向けた地域別の気象条件、環境条件の違いによる、生育特性について調査検討し、栽培マニュアル作成に向けた取り組みをすすめる。

2 普及活動の内容

(1) 県内の標高400mから標高10m地域における、リンドウの実証ほを設置し、生育状況の調査を行った。

(2) 低標高地において遮光資材の展帳による気温や地温の低減効果を測定し、生育状況の調査を実施した。

(3) 実証ほ調査、先進地視察研修調査結果を山口県リンドウ研究会で報告し、普及推進を図った。

・ 供試品種：やまぐちオリジナルリンドウ「西京の初夏」

山口県リンドウ研究会

・ 調査研究期間：

定植日：平成24年5月10日

平成24年6月～平成25年3月

(定植1年目株調査 遮光効果)

平成25年4月～平成25年8月

(定植2年目株調査 標高別開花期)

定植日：平成25年5月13日

平成25年6月～平成25年3月

(低標高地における遮光効果 定植1年目株調査)

・ 対象地域：県内8カ所

・ 栽培環境：平成24年定植 遮光区 遮光率35%の遮光資材を展帳、他は露地栽培
平成25年定植 低標高地標高100m以下遮光実施 他は露地栽培

・ 調査内容：生育調査（草丈、茎数）、出荷期間、気温・地温



遮光区の設定

3 普及活動の成果

(1) 標高別生育調査結果によりリレー出荷の可能性

ア 平成24年定植生育調査結果

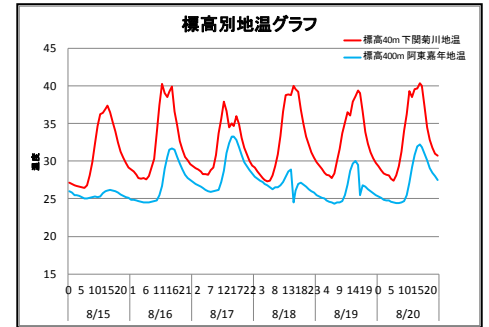
- ・生育が最も旺盛で、9月になっても葉色が良好であったのは、標高417mの山口市嘉年であった。
- ・標高20mの宇部市片倉では、7月までは生育良好であったが、8月以降枯死株が増え、最終的に67.5%が枯死し、残った株も生育不良であった。
- ・標高417mの山口市嘉年と標高28mの下関市菊川の地温を比較すると、菊川の方が高温の出現頻度が高い。

イ 定植2年目株の出荷期調査

- ・標高が上がるにしたがい、草丈、花段数等のボリュームが増す傾向にあった。

栽培1年目

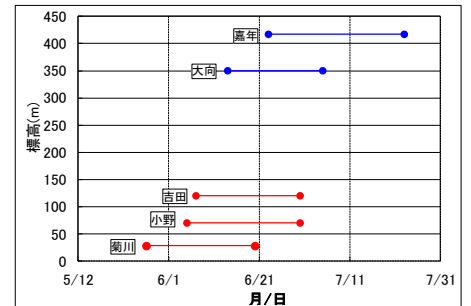
地区	標高	H24年8月中旬		H24年9月下旬		H24年9月欠株率
		草丈	茎数	草丈	茎数	
宇部市片倉	20m	30.8	4.5	36.7	4.6	67.5
下関市菊川	28m	35.9	5.7	42.9	6.3	20.0
宇部市小野	70m	28.3	3.3	33.0	5.6	2.0
下関市吉田	120m	22.5	4.6	24.1	4.9	2.0
周南市大向	350m	33.1	5.0	37.8	6.8	0.0
山口市嘉年	417m	36.2	5.7	53.5	6.9	0.0



- ・出荷期が最も早かったのは、下関市菊川で5月27日から出荷が始まり、最も遅かったのは、山口市嘉年で6月23日からであった。
- ・低標高地から高標高地にかけて、「西京の初夏」で5月下旬から7月までの出荷がリレー的に行える。

出荷可能時期

地区	標高	H25年6月上旬				
		草丈	茎数	出荷可能数	花段数	出荷始め
下関市菊川	28m	57.7	3.6	0.9	3.5	5月27日
宇部市小野	70m	60.6	5.7	2.0	3.9	6月5日
下関市吉田	120m	74.7	6.1	3.4	4.5	6月7日
周南市大向	350m	71.7	7.4	3.9	4.0	6月14日
山口市嘉年	417m	90.0	7.2	4.0	4.7	6月23日



(2) 遮光資材等により低標高地での栽培可能性を確認

ア 遮光資材効果調査結果

- ・下関市菊川の遮光区は、らくらくスーパーホワイトW35という遮光率35%の資材を7月30日～10月29日まで展帳した。9月の時点では遮光区は明らかに葉色が良好で、生育旺盛であった。越冬株の状態は、遮光区の方が草丈、茎数が多く、欠株は少なく生育が旺盛であった。遮光資材の展帳により、地温抑制が認められた。

栽培1年目

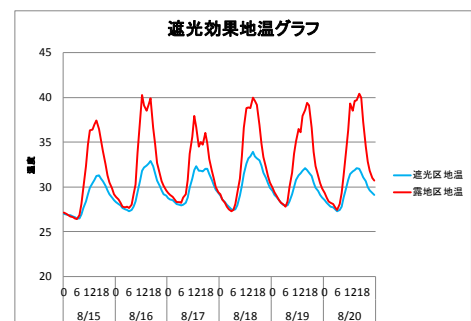
地区	標高	環境	H24年8月中旬		H24年9月下旬		H24年9月欠株率
			草丈	茎数	草丈	茎数	
下関市菊川	28m	露地区	35.9	5.7	42.9	6.3	20
下関市菊川	28m	遮光区	36.7	5.7	48	6.1	13.7

越冬株2年目

地区	標高	環境	H25年3月中旬		H25年4月中旬		H25年5月下旬		H25年5月欠株率
			草丈	茎数	草丈	茎数	草丈	茎数	
下関市菊川	28m	露地区	17.8	3.9	34.4	3	48.6	3	29.5
下関市菊川	28m	遮光区	23.5	6.4	44.6	4.2	59.6	4.2	16.5

出荷可能時期

地区	標高	環境	H25年6月上旬				
			草丈	茎数	出荷可能数	花段数	出荷始め
下関市菊川	28m	露地区	57.7	3.6	0.9	3.5	5月下
下関市菊川	28m	遮光区	68.5	5.2	2.6	4.3	5月下



イ 平成25年定植1年目株における低標高地での遮光効果

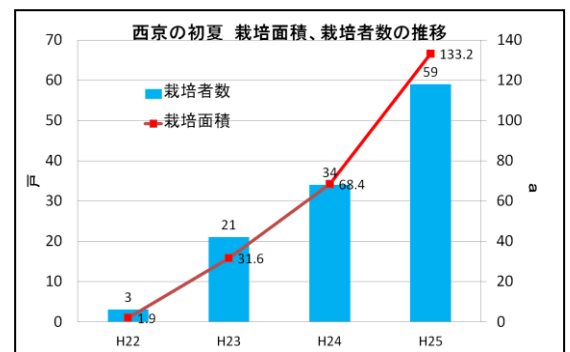
- ・遮光を実施し、さらなる低標高地での栽培実証を行ったところ、11月までの調査は、最も標高の低い柳井市余田でも高冷地と同等の生育を示した。

栽培1年目

地区	標高	環境	マルチ	H25年8月中旬		H25年10月中旬		H25年11月 欠株率
				草丈	茎数	草丈	茎数	
柳井市余田	7m	遮光区	白黒ダブル	42.3	7.8	40.5	5.4	9.0
下関市菊川	28m	露地区	白黒ダブル	39.6	4.9	14.7	1.1	49.0
下関市菊川	28m	遮光区	白黒ダブル	45.1	4.8	29.4	2.3	29.0
下関市豊北	80m	露地	黒	28.5	5.7	17.0	1.9	22.5
萩市弥富	182m	露地	白黒ダブル	22.7	3.7	15.2	1.6	23.5
周南市須々万	363m	露地	黒	35.9	6.8	41.4	4.9	0.5
山口市嘉年	417m	露地	黒	29.4	5.6	25.7	4.4	0.0

(3) 「西京の初夏」栽培面積の増加

- ・山口県リンドウ研究会における研修会等によりやまぐちオリジナルリンドウ「西京の初夏」の面積は平成22年栽培面積2 a 栽培戸数3戸から平成25年栽培面積133 a 栽培戸数59戸への増加した。



4 今後の普及活動に向けて

- ・やまぐちオリジナルユリ「西京の初夏」は現在まで面積、栽培戸数が増加してきており、県域での栽培のさらなる安定化が求められている。
- ・遮光等により欠株率は減少しているが、低標高地での採花数の増加、品質向上等に課題がある。
- ・関係機関、山口県リンドウ研究会と連携を密に山口ブランドとしての認知を向上させていきたい。



取材を受ける生産者



「西京の初夏ポスター」